

第3回 令和3年度使用 中学校教科用図書審議会

日時：令和2年7月14日（火）

17時57分～19時57分

場所：文京シビックセンター20階

教育委員会室

文京区教育委員会

令和3年度使用中学校教科用図書審議会（第3回）会議録

日時：令和2年7月14日（火）17時57分～19時57分

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

「出席」	委	員	長	小 椋 孝
	委		員	石原絵里子
	委		員	松田大悟
	委		員	吉江信貴
	委		員	鈴木洋子
	委		員	吉村達也
	委		員	宮入祥郎
	委		員	杉浦芳則

「事務局」	統	括	指	導	主	事	二ノ宮正信
	指	導	主	事			子野日芳和
	指	導	主	事			室岡祐太

○ **担当** 皆さん、こんばんは。

定刻前ではございますが、おそろいですので、これより第3回審議会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認等をさせていただきます。

本日お配りした資料は、事前にお配りしている資料も含めて次第に示してございます。御確認ください。

なお、資料1につきまして、社会の部分で若干変更が入ってございましたものを本日は御用意させていただきました。よろしくお願いいたします。

また、見本本につきまして、事前に御了承いただきましたが、お2人に1冊というものもございます。譲り合ってお使いいただくようお願いいたします。

また、副委員長ですが、本日、緊急の対応が入ったために、審議会を欠席いたします。御了承いただきますようお願いいたします。

それでは、早速、委員長に審議を進めていただきたく思います。

よろしくお願いいたします。

○ **委員長** それでは、説明をお願いします。

○ **担当** 英語ですが、全部で6社、東京書籍、開隆堂、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館となっております。

特に外見を見ていただいて、どれもカラフルになっておりますが、啓林館だけ、イラストではなく、海、砂漠、山などの風景写真となっております。

また、教科書のサイズですが、東京書籍が大きいサイズを採用しております、小学校の使用教科書と同じサイズとなっております。

まず、1年生の教科書を御覧ください。そちらの表紙の次のページを御覧いただきますと、東京書籍は何ができるようになるかを示していきまして、開隆堂がアルファベットとなっております。三省堂は世界の言語でありがとう、教育出版は動物の写真とともにどのレッスンに関連するかを問いかけております。光村図書につきましては英語でやってみよう、啓林館は学習する内容等、6社それぞれに特徴のある構成となっております。

また、全社とも、その次のページから目次や教科書の使い方を提示しており、同じような形式となっております。

それでは、1社ずつ、主な特徴について調査研究委員会のまとめを基に説明させていただきます。

東京書籍です。58ページを開いていただければと思います。こちらはQRコードを読み込んでいただきますと、このユニットの動画を見ることができます。文法を形として覚えるだけではなくて、目的、場面、状況を確認できる内容となっております。2点目ですが、1年生、122ページ、123ページを御覧ください。他教科で学んだことを英語の視点で学ぶコーナーが設定してあります。1年生ですと、小学校の国語で扱う「ごんぎつね」や「スーホの白い馬」などを基に、物語の文章構成を学べるコーナーとなっております。

続きまして、開隆堂の説明をさせていただければと思います。1年生の47ページを御覧ください。自己紹介から始まり他者紹介、ポスター発表、外国人に地元のをPRするなど、身近な場面から社会的な場面まで自分の言葉として英語を使えることを最終目標としたアウアプロジェクトというページがございます。こちらのページが最初のページになるのですけれども、3年間を通して全8か所に配置しております。どんな力を身に付けさせたいかというゴールが明確で分かりやすい内容となっております。また、1年生、96ページを御覧ください。プログラムごとに導入で2コマ漫画を取り入れており、ストーリーが完結するように構成されております。同じページに、肯定文、否定文、疑問文をまとめて学ぶことができるような構成となっております、様々な表現を簡潔に学べるというのも特徴となっております。

続きまして、三省堂の教科書を御説明させていただきます。1年生の84ページを御覧ください。ゲットやユーズなど、各ページの役割を明確にしている構成となっております。生徒にとっては、今、何をしているのかが分かる学びやすい構成となっております、また、指導側、教える側にとっても、何を指導するのが分かりやすい構成となっております。また、96ページを御覧ください。各レッスンの最後に文法のまとめのページがございます、生徒が学んだ文法事項の振り返りだけではなく、英語の仕組みについてもイラストによってイメージがしやすくなっております。最後に、巻末の資料ですが、1年生の144ページから147ページのように、リーディングファンというコーナーがありまして、「不思議の国のアリス」であったり、2年生では「星の王子さま」など、生徒に親しみのある教材文を使い、興味・関心を高める工夫がされております。

続きまして、教育出版のほうを御説明させていただきます。こちら、まず、大きな特徴としまして、1年生、132ページにマスキングシートがございます。133ページから巻末のQ&Aや動詞の変化表など、特に暗記が必要なものが赤字で表記されており、赤のシートで隠すことによって自主学習をすることができる内容となっております。続きまして、1年生50ページ、また、2年生は30ページ、3年生につきましては68ページ、こちらのページにはハウツースタディーというコーナーが、勉強や復習の仕方などを中心に英語力を高める様々な方法が紹介されており、生徒が読むことで勉強の仕方などを自分から積極的に学ぶことができる、そのような構成となっております。

続きまして、光村図書の説明となります。1年生、50ページを御覧ください。漫画で使用場面を想像させたり、20ページから22ページにありますように、ページを追って音と単語をつなげたりするページがございます、生徒の興味・関心を引き出す工夫の一つとなっております。3年間を通したストーリーの設定となっている点も、生徒に親しみやすい点の一つでございます。次に、1年生の106ページ、107ページを御覧ください。発音のアドバイスが日本語でも説明されているため、生徒に分かりやすく、また、表現という欄を設けておりまして、新出単語とは別に掲載されていることも視覚的に見やすい配慮となっております。

では、最後に、啓林館の説明となります。2年生の8ページを御覧ください。こちらにノートと呼ばれるページがありまして、資料集のような、追加情報が日本語で記載されており、生徒にとって分かりやすい内容となっております。また、全体を通して1年生では「イソップ物語」や数学パズル、2年生では、動物園、落語、3年生では、盲目の折り紙作家など、物語や落語など、楽しい読み物が巻末のレッツリードにまとまっており、生徒の興味・関心を高める構成であることも大きな特徴となっております。

こちらで以上となりますが、これまでの審議会で話題となりました、デジタル教科書の扱いやユニバーサルデザインフォントにつきましては、全社対応となっております。

また、文京区に関連する内容ですが、開隆堂と啓林館、光村図書が葛飾北斎を扱っております。

○ **委員長** それでは、どの順でも構いません。これとこれという形でも結構ですので、御意見のある方、よろしくお願いします。

○ **委員** NEW HORIZONなのですけれども、今、小学校は多分これを使って、同じ大きさということもあるのですが、これはすごくいいなと思ったのはですね、1年生のページの下のところを見ていただくと、各ページのところに小学校の単語は全部出ているのですね。下に出ていたり横に出ていたりしているのですけれども、見ていただくと分かる。小学校の習った単語。だから、これが出ているので、特に中1なんかはやはり小学校で、同じ教科書だということもあるのですけれども、これはすごく便利かなというふうに思いました。こういう特徴があります。

あと、巻末に、一番最後にキャンドゥーリストとあるのです。これは何かということですね、英語でキャンドゥーリストって、どの程度のことが自分で1年間で目標があってできるようになったかと、これでチェックするようになっているのですね。だから、これを見て、最後に、自分で、1年間勉強を終わって、ステージ1、ステージ2、ステージ3と書いてあるので、ここにチェックを、ニコちゃんマークみたいなものがついているところにしていくと、これで大体自分のですね、今までの出来具合というのが確認できるというのがすごくよくできているなというのが、1点、ありました。

○ **委員長** どうぞ。

○ **委員** 開隆堂のは、2、3年生の教科書のところなののですけれども、2年生の教科書かな。3年生のもあるのですけれども、リテルというのが載っているのですね。リテルとそれぞれ出ていて、これは何かというと、今までやったところを、絵を見ながら説明するような、1年生のところはそういうのはないのですけれども、英語のほうで即興で会話を、要するに、だから、自分で何かを見てやるのではなくて、絵を見て、自分が習ったもの、いろいろな文とか単語を使って、その絵を参考にしながら、幾つかそこに単語も出ているのですけれども、それを参考にしてくるやうに友達とかと2人でやり取りをするようなですね、そういうような練習のが出ていて、そういうような力をね、つけていきましようというのは、英語の今の授業の中でも、これから新しい指導要領の中でやっているの

で、そういう意味では非常にいい教材というか、そういうものが、1年生はないのですけれども、2、3年生の教科書の中にそういうものが出ているのがこの教科書の特徴です。

あと、三省堂のほうはですね、すごく文章が充実しているのですね。先ほどもちょっと説明があったと思うけれども、読み物資料が充実していて、英語の得意な子には非常にまとまった分量の文章を読めるのでいいのかなと思うのですが、反対に英語が苦手な子には、学年が上がると、これは文字数がぐっと増えてくるのですね。読み物も、リードなんかのところでは、ユーズリードというのがあるのです。これが大体2ページぐらい、結構な語数があるので、文京区なんかは英語の力のある子が多いと思いますので、そういう子たちにとってはすごくやりがいがある。逆に、ちょっと英語の苦手な子には、ちょっとこれは苦手だなという部分がある。そういう部分のところがあるのですけれども、読み物はすごく充実しています。

それから、教育出版、ONE WORLD、これは先ほど巻末にクリアシートをつけて暗記がしやすいというのもあったのですけれども、各ページを見ていただくんですね、下のところに読んでいくときに10個つけるこういうのが出ているのですね。何と言うのですかね。10本印でこういう印をつけるようになっていて、一回読んだらこういうふうにしてリードアラウドというのが多分あると思うのですけれども、これは、1個ずつ読んだら、こうやって塗り潰していけば、何回読んだかというのが比較的分かるので、こういうのは結構子供って一生懸命やると思うので、これはいいものがくっついているなというふうにちょっと思いました。

次、光村も、対話練習のいろいろなものがたくさん出ているのですけれども、これはさっき言いましたけれども、リテリングと、要するに、同じですね。ストーリーリテリング、やったところを、いろいろな絵を見ながら友達と説明していくという、即興でいろいろ話す力を高めるというような材料がたくさんあって、いろいろな活動をやるための教材も結構豊富にたくさん出ているので、そういう意味ではすごく話す力をつけさせるということではいいのかなと思います。最後のほうにも、レッツトークというのでいろいろなマッピング、要するに、ちょっと切れているこういう紙があるのですけれども、これにスピーキングのこういういろいろな練習するのも結構充実しているのですね、そういう意味では話すという力をつけさせるような教科書というのかな。そういう意味では、すごくそれがよくできているところだなと思います。

それから、最後のBLUE SKYですかね。啓林館さんなのですけれども、結構、シンプルにできているのですけれども、ちょっと文字数がさっきのNEW HORIZONとか、NEW CROWNに比べると、ちょっと少ないのですね。ですから、何というのですかね、文京区なんかだと、やはり英語に力のある子とか、あとは帰国の方なんかもいるので、特に3年生なんかは、これだとちょっと物足りないのではないかなと。分量ですね。あと、難易度ですね。少し物足りないかなと、そういう各単元の英語の分量がちょっと少ないかなということで、内容としてはそれで別に問題があるわけではないのですけれど

ども、ちょっと私が見た感じではそんなことを感じました。

以上です。

○ **委員長** ちなみに、キャンドゥーリストというのは、例えば、開隆堂だと、英語でできるようになったことリストみたいなものがあるし、一応どんな形でもみんなどの教科書も巻末にはそんな似たようなものがあるようです。

では、私のからいいですか。

1年生の2番目の単元を全部開いてみたのですけれども、それぞれ、ゴールとか、目標、こういうことをやろうということが出ているのですけれども、光村の38ページ、39ページですか。光村のは、リスニングとスピーキングにゴールが出ているので、子供らにとってこれは非常に分かりやすいのかなと思います。具体的に2つ目標が出ていて、特に、聞く、話すということは大きな目標だと思いますので、これはほかのに比べて見やすいのかなと思いました。

ちなみに、東京都の資料だと、文京区はスピーキングの話すことを重視しているかと思うのですけれども、やり取りと発表、聞くこと、読むこと、話すこと、やり取り、発表、それから、書くこととある中で、どれぐらいの比重を占めているかということ、東書が33.4%、開隆堂が36.8%、三省堂が32.0%、みんな32ぐらいで教育出版だけ19.2%とちょっと低いというか、聞くことがかなりウエート、読むことにもウエートを入れているようです。光村が25、啓林館は逆に43.8とここに随分入れているので、バランスはどうなのですかね。ある程度バランスをよくして、ここを特徴にやるというぐらいのほうがいいのですかね。

○ **委員** そうですね。

○ **委員長** あまり極端に多いとか少ないというのはどうなのかなと思いますけれども、東書、開隆堂、三省堂辺りが30%から35、36%をここに入れているというようなところが特徴的でありました。

お気づきの点があったらお願いします。

○ **委員** 何かすごく初歩的な問題で伺いたいのですけれども、リスニングってQRコードから聞くのですか。それとも、何か、昔だったらCDとかで聞いていたのですけれども、これはどこで聞くのですか。

○ **委員** 今はデジタル教科書があるので、多分それに問題をぽんとやれば、そこから英語が流れてくるので、それを聞いて多分学習していると思います。

○ **委員長** 電子黒板に映したこの教科書のところを、ぽんとたたくと、もうそこから音声が出てくるということですよ。

○ **委員** あと、ペンみたいなものでやればですね。そうすると、大体出て、それで聞きながらやっていますよ。多分どこでもやっていると思いますよ。

○ **委員長** だから、CDを持っていかなくていいということですね。

○ **委員** そうですね。今、テストなんかでそういうのを使うことはありますけれども、授業なんかはこれは持っていったいないので、多分電子黒板というやつ、そのこうい

うやつで聞いてやっていると思います。

- **委員** つまり、生徒は自分で何もできないということですよ。
- **委員** そんなことはないです。これ、QRコードがついていれば、自分でそれをやれば、後で聞けるので、授業のときはそれを使ってやっているということなので。
- **委員** では、QRコードが全部ついているのですか。どの教科書も。ついていないのは。
- **委員** HORIZONはついてます。多分ついてると思います。今、そういう会社もそういうものをつくっているの、光村もこうやってQRコードがついていますし。
- **委員** それはついてるのも結構あるのですけれども、でも、その電子黒板をみんな使っているということ。
- **委員** 授業ではそれを使ってやっていると。
- **委員長** タブレットを一人一人持ってれば、自分の好きなところとか、進度でできるのですね。
- **委員** できます。
- **委員長** その代わり、それぞれになってしまうとは思いますが。
- **委員** そうですね。
- **委員** 私たちのときには、みんなコピーしてやっていたから。そうなんだ、今は。
- **委員** 感想をよろしいですか。
- **委員長** どうぞ。
- **委員** NEW HORIZONなのですからけれども、やはり1つだけサイズが大きいだけあって、先ほど委員もおっしゃったように、下のほうに、前の単語、小学校で習った単語が載っているよというところもありましたが、全体的なレイアウトだったり、附属の情報だったり、付録の情報だったりというところが充実しているなど、とても見やすいなという印象を受けました。だから、この大きさを十分に生かし切ったレイアウトをしているなという印象を受けました。

一方、それに比べたときなのですからけれども、教育出版のONE WORLDということに関しては、ちょっと中の白い部分が多いような印象を受けたりとか、色合いが、例えば、14ページを見ていただくと、ちょっときれいではないとか、何か安っぽい発色で何だかなという色合いにしてしまっているのがちょっと残念だなというところで、生徒が受け取ったときに、ちょっと安っぽいイメージをもってしまわないかなというような感想を持ちました。

以上です。

- **委員長** 何となくそうですね。確かに。
- **委員** そのとおり。
- **委員長** イラストも粗いとか、何か。
- **委員** 啓林館も白い部分が多いですね。
- **委員** そうですね。啓林館も白い部分が多いですね。

- **委員長** 見た目ですね。そうですね。
- **委員** 分量がやはり少ないんだよね。
- **委員** でも、光村が、何か子供受けしそうな教科書。漫画があって、先生がおっしゃった、何か使いやすそうなの。
- **委員** 話すという活動をいろいろこれはそろえていますよね。
- **委員** これね、すごく何かそういった面では。
- **委員** すごい。
- **委員** 興味深くやれそうな気がしますよね。
- **委員** 聞いたり、話したり。
- **委員長** この教育出版には、赤いこれ、普通、みんな、書いて、自分のノートでこれをやっていたような気がするのですけれども。
- **委員** そうですね。
- **委員長** あと、それ以外にも何かカードがついていますよね。こういうものというのは、ありがたいのですか。それとも。何回もこれは使える。要は、1回で使うのか、2、3回に分けて使うと、何かびりびりになってしまったり、この間も出たけれども、この赤いものをなくしてしまった子はどうしようもない。
- **委員** なくすということはあるでしょうね。あとは、びりびりとかね。大事に使う子は結構何回も使ったりとかするけれども、あまり勉強しない子にとっては、なくすね。
- **委員長** 特にここまで教科書についていても、あれば使う子は使うしという。
- **委員** そうですね。
- **委員長** あと、この開隆堂の後ろにカードがついていて、絵つきのカードで、後ろで出ていて、これは最初の導入ぐらいですかね。
- **委員** そうですね。
- **委員長** というか、小学校でもうやっていることですかね。
- **委員** 2年の教科書にある。
- **委員長** 2年にもありますか。
- **委員** あります。3年もありますよ。
- **委員長** あえて付録としてついているけれども、それほどお得感というわけではないと。
- **委員** そうですね。そんなにこれで何か特別得しているというのはないですね。
- **委員** B L U E S K Yは、大体この文字ってユニバーサルデザインの文字ですか。
- **委員** 大きさですか。
- **委員** B L U E S K Yの文字。文字というか、英語の丸っこいこれ。全体的にB L U E S K Yのは何か文字がこうなのですけれども、ほかの教科書は。
- **委員長** さっきお話があったとおり、ユニバーサルデザインフォントは全部使っている。

○ **委員** 使っているのですけれども。

○ **委員長** 全社が使っているのだけれども、そのユニバーサルデザインのフォントといっても何種類かあるから、その中でより見やすいと思ったものがあれば挙げていただいても結構かと思います。

○ **委員** ただ、ユニバーサルを使っているのだけれども、中にはそうではないものと、区分けは何かあるのですかね。ユニバーサルを使っているところと使っていない部分があったりする。例えば、開隆堂なんかはそういった部分があったりして、全部が全部、BLUE SKYみたいにほぼユニバーサルデザインで書いてあるなら何となく分かるのだけれども、その使い分けが何なのかなと思って、すみません。英語とは何か関係ないかもしれないのですけれども。

それは特に問題はないですか。特に問題はないですね。

○ **委員** 特に問題はないと思うけれども。

○ **委員長** 東京都の資料によれば、フォントもそうだけれども、この配列とか、そういうものを規則的にすることで分かりやすくしている。これはどの教科書もそうしているみたいですね。パターン化するとか、そういうことで。

啓林館は、色使いとデザインについて誰にでも必要な情報が伝わるように配慮したことによって、メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中だと出ていますけれども、ただ、ほかもそういう配慮はしていますよというのは出ているようですね。

2次元コードも全部出ているのですよね。全社ともに。2次元コードでいえば、東書が導入場面で動画があって、三省堂がウオッチと書いてあるところを見ると動画がある。光村も、ウオッチというところがあると、動画が見られる。あとは音声のようですね。

ほか、いかがですか。印象等でも結構だと思います。これは見やすいとか、読みやすいとか、勉強する気になるとか。

○ **委員** もう一つ、よろしいですか。

全教科書の登場人物の設定をちょっと見させていただいたのですけれども、その中で、NEW CROWNが非常に多国籍な登場人物を出していると。イギリス、アメリカ、インド、中国、オーストラリアというところを取り上げていらっしゃるって、これは唯一、ここまで多国籍なのはこの教科書だけなのですね。そもそも英語を習う意味って、アメリカ人やイギリス人と会話するということよりは、全世界の共通語として話していくというところが多分主眼なはずなので、こういった多国籍の英語圏ではない中国だったりというところの国を出してくるところで、それが無意識的に可視化されてくるのかなといったところが一つ評価できるのではないかなと思いました。

ほかの教科書だと、例えば、SUNSHINE、開隆堂だと、アメリカ、オーストラリアしか出てこなかったりだとか、もしくは、BLUE SKYだと、シンガポールという、ちょっと微妙な、あそこは英語圏ですけどもアジア系だとか、そういったところを載せているのですが、あと、光村さんが韓国人の方を載せているといったところもありますけ

れども、こういったいろいろな国を載せているといったところは三省堂を評価できるのではないかなというふうに印象を持ちました。

以上です。

○ **委員長** ありがとうございます。

ちなみに、開隆堂は、3年生で、火災発生時の館内放送、非常時のアナウンスを聞こう。三省堂は、学校の避難訓練のリスニング。実際の場面に即したそういう題材を取り上げているということは、開隆堂と三省堂にはあるようです。開隆堂が3年の90ページ、三省堂も3年の16ページにそれがあるということです。ごめんなさい。東書も、ラジオの災害情報ということで、3年の56ページにあります。

今、後ろに辞書的なこういうものが出ているというのは、みんな載っているのですかね。

○ **委員** みんな載っていますね。最近は。

○ **委員長** そうですか。辞書引かなくてもいいのね。

○ **委員** ただ、辞書指導でやっていますけれどもね。うちなんかは当然それはそれでやっていますけれども、ある程度はここに単語の索引はほとんど出ているのではないかな。

○ **委員長** ワードリストなんていってね。結構丁寧なのですね。

○ **委員** そうですね。かなり丁寧ですね。東京書籍はすごく丁寧。

○ **委員長** これだけ出ているれば、英語を好きになったかもしれないですね。

○ **委員** 詳しい。丁寧に本当に。

○ **委員長** 自分らの頃なんか。

○ **委員** こんなに丁寧な資料がついている。

○ **委員** ページ数も載っていますので。

○ **委員長** みんな出ているわ。すごい。

○ **担当** 関連して、いいですか。

今御覧になっていただいているその巻末の一覧のところなのですからけれども、3年間で合計の取扱いの語数というものが東京都の資料にございまして、一番多く取り扱っているのが光村です。2,295という取扱いの語数になっています。次が、開隆堂、三省堂、東京書籍、教育出版、啓林館の順です。光村と啓林館、一番多いところと少ないところで引き算をすると、500ぐらい違いがあるというところで、東京都の資料から読み取ることができます。

○ **委員** 開隆堂は、最初に、それぞれの科で、シーン、それから、シンク、リテル、インタラクトと、このそれぞれの科で、どういうことをやれば、その場面を想像しながら考えて、それを人に伝える、会話もできるという、そういう構成に全部なっていて、英語の能力を高めるには、そういうふうにして、生徒に考えさせたり、言わせたり、カンバセーション、ロールプレイなんかをさせたりするというのが、何か結構進んでいるというか、いいのではないかなと私は思いました。開隆堂さんがそういうふうな組立てにしているのです。

以上です。

○ **委員長** ほかにいかがでしょうか。

英語はもうよろしいですか。

歴史的分野は7社から出ています。

では、お願いします。

○ **担当** それでは、私のほうから簡単に説明させていただきます。

7社でございます。

まず、各社の特徴でございます。東京書籍は、見開き、本文冒頭に「学習課題」が示されておりまして、項の終わりには、「チェック」、「トライ」とリンクさせて、学習を進める意図が見られます。また、見開きの両端に解説や発展的な知識について配置しております。また、巻末の年表ですけれども、日本と世界との関わり、また、中国・韓国の王朝について触れてございます。

続いて、教育出版でございます。こちらは、表題の脇に「学習課題」が見開きで示されておりまして、その上に学習する時期が示されております。文末の「確認」、「表現」とリンクさせて、学習を深めさせることができます。また、見開きの両端に発展的な内容や解説を配しております。ページの下には、地理・公民との関連というところでキーワードとして整理して示しております。巻末の年表については、日本と世界との関わり、中国・韓国の王朝について触れております。

続いて、帝国書院になります。見開き、本文冒頭に「学習課題」が示されておりまして、項の終わりには「説明しよう」というところでリンクさせて、学習を深めさせる意図が見られます。また、見開きの両端には、発展的な知識、学習する時期を配しております。巻末の年表では、日本と世界との関わりについて触れております。

山川出版でございます。本文冒頭に「学習課題」が示されており、項の終わりの「ステップアップ」と関連させて学習を深めさせる意図がございます。また、見開きの両端には、解説とか、また、発展的な知識について配しております。また、各章ですね。巻末とか、巻頭ではございません。各章の冒頭にある年表で、写真資料とともに日本と世界との関わりについて触れております。

日本文教出版でございます。本文冒頭に、「学習課題」、また、「見方・考え方」が示されています。項の終わりには、「深めよう」、「確認」というふうに、こことリンクさせて学習を深めさせる意図が見られます。また、見開きの両端には発展的な知識、右のほうには学習する時期を配しております。巻末の年表では、日本と世界との関わり、中国・韓国の王朝について触れております。

続いて、育鵬社です。本文冒頭に「学習課題」が示されており、項の終わりには学習内容を振り返る設定がございます。また、見開きの両端の解説には、人物に関する記述が非常に多いということが特徴でございます。また、巻末の年表では、日本と世界との「おもなできごと」について触れております。

学び舎でございます。この学び舎は、少し他社と比べていただければ分かると思うので

すが、レイアウトがほかではちょっと見られないようなレイアウトになっております。また、本文冒頭で単元の狙いについて示されております。また、巻頭と巻末の裏表紙につきましては、「歴史地図」を描かれておりました、表紙に記載があります。また、巻末に12ページにわたる年表を配しており、これがほかの他社では見られないような設定となっております。

デジタル教科書につきましては、育鵬社と学び舎以外の会社はデジタル教科書がございます。

事務局からは、以上です。

○ **委員長** では、よろしくお願いします。

ちなみに、教科書展示会の前回のを頂いたのですが、歴史分野では、1つぐらいの意見はあれですけども、山川が否定的なのが2、育鵬社、8、学び舎、3が、いかがなものかという意見がありました。

では、私のからいきます。同じところを開いてみました。モンゴルの襲来。昔は神風と言っていたのに、今は、暴風雨とか、台風というので、随分変わったなと思ったのですけれども、東京書籍は、全般的に拾うのですけれども、一番下に年代のがあって、ここですよというのが書いてあるのですね。縄文、弥生、古墳時代から、平安、鎌倉、ずっと、江戸、明治、昭和、平成まで書いてあって、そこのこの部分ですよというのが示されていて、私なんかはこれはすんと落ちたというか、こういうのが分かっていたら、これがどこの時代だなということが、全部並んできたのですけれども、ただ何百何十何年とか、千何年と言われただけでは、この比較は私はなかなかできなくて歴史が嫌いになったものですから、これは非常に見やすいかなと思ったところです。色合いなんかは、全部結構鮮やかに出ているかなとは思うのですけれども、そこが一番大きく感じました。

以上です。

○ **委員** 今の年表がページに出ているというのは、ここの帝国書院も出ていて、私も、これを見ながら、年表がそのページにあるので、後ろをわざわざ見なくても、今、このことをやっているんだなということが分かって、東京書籍とこの帝国書院は。

○ **委員** 帝国は右側にある。右端っこ。

○ **委員** ありますね。

○ **委員長** 見落としていました。これですね。

○ **委員** そうです。

○ **委員** 教育出版もありますよ。教育出版は、タイトルの上に。例えば、今の元寇だと74ページ。

○ **委員** 日本文教出版もありますね。これは横です。

○ **委員長** みんな工夫しているのですね。失礼いたしました。ぱっと目に入ったものが、僕は東書だけだったものですから。では、これは先生が意識させればみんな子供は分かる。

- **委員** これはあったほうがいいですね。いずれにせよね。ないところはちょっと。
- **委員長** 本当にどの時代がというのが分かるものですから。
- **委員** すごくいいですね。これ、本当に。
- **委員長** 逆に、委員、ないのは。
- **委員** ないのは、だから、育鵬社ですよ。
- **委員長** 引き算でいくと。育鵬社と。
- **委員** 学び舎。
- **委員** あと、山川もないです。
- **委員長** 山川もないですかね。
- **委員** あと、学び舎。
- **委員長** 学び舎。これは子供にとってはいいと思います。
- **委員** すみません。基本的なことなのですけども、今も中学は2年生でこの歴史をやると大体決まっているのですか。
- **委員** 1年から。
- **委員** 1年からやるのですか。
- **委員** はい。
- **委員** 地理と歴史を一緒に。
- **委員** いや、並行してやります。
- **委員** 並行してやるの。
- **委員** はい。
- **委員長** 関連性も含めてやるのですか。
- **委員** それは、関連しているところは当然取り扱ってやります。並行してやります。
- **委員** 領土問題も若干。
- **委員** この山川だけが1冊というのは。山川は、ほかにも。今日、ここにはないだけで。
- **委員** いや、山川は多分歴史だけしかつくっていないのです。
- **担当** 歴史しか出していないです。
- **委員** そうなのですか。
- **委員** 別に教科書は歴史と地理で別に違っても、別に。
- **委員** いいのですか。
- **委員** 反則ではないですから。
- **委員** そうすると、そういうところは、地理とか、ほかのは、ほかの会社のをを使うということ。
- **委員長** そうですね。特化しているということですね。
- **委員** 分かりました。すみません。
- **委員** 逆に言えば、いいところをそれぞれ区市町村で選んでいいというシステムなので、それぞれの分野でやはり一長一短というか、強みが出版社によって違うので。

○ **委員** 分かります。それは。

○ **委員** 発言させていただきます。

○ **委員** 歴史を学ぶときに、やはり歴史の物差しではないですけども、時代区分とか、年代の読み取り方とか、測り方とか、そういうのって結構基本に、何世紀とか、西暦とか、何とか時代とか、そういうのはどういうふうに扱っているかなというのを調べようかなと思ったんですけども、例えば、山川だと5ページからそういう項目。大体頭のほうに。1年生の最初に、基本中の基本なので、それはやる、取り扱うんですけども、日本文教出版だと、11ページ。この出版社は、11ページだけでしか扱っていないですね。それから、帝国だと2ページからです。帝国は、何かその分野がやはりちょっと丁寧に、4ページをかけてやっていますね。教育出版だと、4ページから。出版社によってちょっと力の入れ方が結構ここは違うなというふうに思ったんですけども、東京書籍は、8ページ、きれいに見やすくまとまっていますけれども、扱いは1ページ。それから、育鵬社が、6ページ、7ページ。学び舎、8ページ、9ページ。比べたら、やはり帝国が一番充実しているのと、4ページの、古代、中世、近世、近代とこういうよく分け方をしますけれども、こういうふうにちょっと大ぶりの分け方というのは、やはり結構学習指導要領でも求められていて、こういう時代区分は日本と海外はまた時期がずれますけれども、この順番とかは同じなので、こういう感覚ですね。それから、これ、教科書ではこの部分ですよとか、年表ではこの部分ですよというのは、結構丁寧に説明されているなというところですね。そういうふうに思いました。

それから、本文中に、アイヌとか、琉球とかですね。いわゆる、何か、鎌倉時代とか、室町時代とかですね、そういうのでは全然通用しない地域の時代区分にも本文中で言及しています。それに言及しているのは、ほかは山川も本文中では言及していますね。ほかは全然そういうことを述べていないのですが、ただ、学び舎の9ページの年表を見ていただくと、この縦の年表というのですかね。時代区分の中に北海道と沖縄の時代区分を入れている。これはこの会社だけですね。

育鵬社が7ページで、原始、古代、中世、近世、近現代となっていて、唯一近代と現代を分けていなくて戦前と戦後を分けていないのかなと思ったんですけども、ここだけで、後ろのほうでは分けているようなので、巻末の年表とかですね、だから、意図的ではあるのかなのかよく分からないのですが、こういうふうに分けて、戦前・戦後を分けていないのはここだけですね。この巻頭で分けていないのはこの会社だけということでした。

以上、ここは結構差があるなど、出版社によって差があるなと思いましたが、以上です。

○ **委員長** 今のことでいうと、学びやすいというので見たら、どれが挙がるのですかね。

○ **委員** やはり帝国かな。

○ **委員長** これとこれはいいよと、今の視点でいって、具体的に子供たちが学びやすいということではいへば。

○ **委員** 帝国が丁寧かなと。

○ **委員長** 帝国書院が丁寧。

○ **委員** ページ数もかけていますね。ただ、ページをかけていないけれども、東書も、非常に、何と言うのだろう、まとめ方が上手で分かりやすいのではないかなというふうに思います。

○ **委員長** 今、帝国書院と東京書籍が挙がりました。

先ほど、英語のときで、ユニバーサルデザインフォントとか、そういうところでいうと、東京書籍がユニバーサルデザインフォント、教育出版もそれを使っています。帝国書院も、使っています。山川は、ユニバーサルデザインに配慮しています。レイアウトとかですね。日文も、ユニバーサルデザインフォント。育鵬社は、カラーバリアフリーに配慮しています。学び舎は、グラフとか、地図をユニバーサルデザインにしています。カラーの。そういうところが挙げられています。

やはり全部出しているやつは、通してユニバーサルデザインフォントとか、そういうところまでやっているのでしょうね。

展示会の意見だと、第二次世界大戦のことを「大東亜戦争」と表現しているのはいかなものかとか、そういう御意見もありましたけれども。

○ **委員** そうですね。歴史的に課題のある呼び方かなとは思っているので、扱い方はやはり大事かなとは思うのですけれども。

○ **委員長** ちなみに、東京書籍は、欄外に、当時の日本政府はそう呼びました。教育出版も、欄外で、政府は中国での戦争を含めてそう呼びました。帝国書院も、戦争中、日本はこの戦争のことを「大東亜戦争」と呼んでいます。山川は「太平洋戦争」。文教出版は、やはり欄外で、当時の日本政府はということで「大東亜戦争」と呼びました。育鵬社は、日本は「大東亜戦争」と名づけました。括弧、戦後は「太平洋戦争」と呼ばれるようになりました。欄外、GHQが「大東亜戦争」の名称を禁止したので、「太平洋戦争」という用語が一般化した。項目は、太平洋戦争、括弧、大東亜戦争。こだわっていますわな。結構。学び舎は、アジア・太平洋戦争、括弧、太平洋戦争で、欄外に、当時の日本政府はこの戦争を中国との戦争を含めて「大東亜戦争」と命名した。こう呼ばれていたという事実はいろいろなところで書いているけれども、やはり参考的な扱いとそうでないところとはあると。育鵬社は「大東亜戦争」と項目名につけているという指摘が、展示会の意見ではあったようです。国民が望み、アジア解放のための正義の戦いだという解釈の下に書かれているのに驚愕したと、そのような意見もございます。

社会の教科書を見て特徴的なのは、やはりしっかり押さえなければいけない語句が、ゴシックとか、強調されているのが多いのですけれども、学び舎は全くないのですね。これは何か読み物資料みたいな感じで出ているところで、やはりこういう語句はしっかり歴史としては押さえたいから強調されているのでしょうか。

○ **委員** そうですね。ポイントになるので。また、復習なんかをするときには非常に役

に立つのではないかなと思いますね。これだけが大事ということではなくて、やはりその前後の関係とか、その意味がやはり捉えられて初めて学力になっていくとは思うのですけれども、やはりそのきっかけとかには非常になるのではないかな。この辺でこれを勉強したとか、学んだなどというのを思い出すのには、すごくいいのではないかなと思います。

○ **委員長** やはり、これ、読んでいても、強調してあると、それがこれだなということが分かるので、私なんかはなじみが多いのですけれども、今、ふと見たら、学び舎は書いていないので。

社会は、やはりデジタル教科書の有無というのは大きいですよ。これ、資料を見せるという点では。

○ **委員** そうですね。

○ **委員長** 先ほど事務局からあったのが、ないのが育鵬社と学び舎ですか。

○ **担当** はい。

○ **委員長** あとは出ているのですね。

○ **担当** はい。

○ **委員長** あとはいかがですか。

○ **委員** 帝国書院は、文のところどころに、何ページのイとか、何ページのアとかって、それを見ると、この絵のページに飛ぶのですね。その絵の中のどの辺を言っているかというところに飛ぶのが、ちょっと面白いのですけれども、ただ、この教科書を普通に読んでいたときに、いちいち、この何ページのウとか、何ページのエというのが、結構目に入るのが、勉強しているときにはどうなのかなって、実際、子供たちはどんなふうに受け止めるのかしらと。

○ **委員長** 両方考えられますね。おっしゃるとおり。

○ **委員** いいところと。

○ **委員長** そっちへ飛んでいってしまって、そのまま帰ってこない子もいる。

○ **委員** 集中力がない子とある子で差が出てくるのか。

○ **委員長** そっちが面白くなってしまうこともありますね。

○ **委員** 何か、場所探しに。

○ **委員** そういう生徒もいると思いますね。個性が違うから、それぞれ。

○ **委員** レイアウト的には、帝国書院とか、東京書籍が結構見やすいかなと思いました。

○ **委員長** 鮮やかというか、見やすい感はありますね。色合いが。

○ **委員** 振り返りで、よくまとめる。大きいから、ここが帝国と東京書籍で、どっちも、まとめのところに「振り返ろう」とか、しっかりできているかなというか、分かりやすいというか、そういうふうに思いました。

○ **委員** 1つ、よろしいでしょうか。

○ **委員長** どうぞ。

○ **委員** 今、このアイヌの施設がまた新しくできたというところで注目されているとこ

ろではあるのですが、この歴史の中でも、アイヌ民族と、また、琉球王国については、どの教科書も必ず多か所にもわたって取り上げているところではあるのですが、どうしても散文、いろいろなところに出てきて、ちょっと分かりづらかったりだとか、琉球王国って何、アイヌって何なのというところが可視化されづらい教科書も結構あるのかなとか、琉球とアイヌが一緒くたになって説明されているとかという教科書があったのですが、その中では、そこだけに関して言うのであれば、山川がですね、88ページと90ページというところで、一つ、琉球の歴史と文化、アイヌの民族と歴史と文化というところできちんとまとめて全部可視化されているといったところのコンテンツに関しては、非常に分かりやすく、今のトピックにも合っているような内容になっているなというふうに感じました。

○ **委員長** ありがとうございます。

山川出版のは、何か詳しいというか、全体的にそういうイメージがありますね。逆に、細かいのかもしれませんが。

○ **委員** そうですね。細かいのと、全部、こういう文体は何と言うのでしょうか。「増えていった」、「導入された」という。ほかはみんなあれなのですよ。

○ **委員長** ですますですか。

○ **委員** ですますなのだけれども、これだけ。それで文字数も多いので、すごく歴史がうんと好きな場合はひよっとしたらいいのかもしれないですけれども。

○ **委員** 難しめなのですね。本当だ。

○ **委員長** それは気がつきませんでした。

○ **委員** ここまでボリュームがあると、先生のほうでも定期テストの問題を絞りにくいとか、そういうことは。

○ **委員** 教員が絞り込むのは多分そんなに苦勞はしないと思いますね。あくまでも、教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるわけなので。だから、資料がいっぱいあるぞというふうになれば。

○ **委員** あと、字の大きさとしては、山川が一番ちょっと小さいですよ。

○ **委員** そうなのですね。どうしてもそこはやはり。

○ **委員** 量が多い分。

○ **委員** ボリュームがありますのでね。

○ **委員長** そろそろ、よろしいですか。まだ何かあれば出していただきたいのですけれども、ちょっと気になる点、あと、トピックになる点、いろいろ出てきたと思いますので、次へ行ってよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

次は、公民です。6点です。皆さんに配られているのが5点、それから、自由社がお2人で1つです。

では、お願いします。

○ **担当** それでは、公民的分野は6社となります。各社の特徴をお話しさせていただきます

ます。

まず、東京書籍でございます。東京書籍は、基本的人権の尊重の部分につきましては、平等権、また、新しい人権について、非常に丁寧に取り上げております。また、見開きごとに学習する課題が示されております。単元末の「チェック」、「トライ」を設定して、生徒が主体的に学習に取り組む設定がございます。また、領土の問題につきましては、領土の単元で、本文で触れて、また、読み物資料で詳細に触れております。

教育出版でございます。特徴としましては、「18歳選挙権」、これを小単元で扱っていると同時に、平等権や新しい人権を丁寧に取り上げております。また、見開きごとに学習する課題が示されております。単元末に、見開きページの右下、「確認」、「表現」を設定し、生徒が主体的に学習に取り組む構成となっております。領土の単元につきましては、画像が豊富で関係する国々を読み物でも詳しく丁寧に扱っております。

続きまして、帝国書院でございます。人権関係につきましては、平等権、差別に関する不当性にスペースを非常に割いております。また、見開きごとに「学習課題」が示され、「確認しよう」、「説明しよう」で主体的に学習したり、思考を深めたりできる設定となっております。領土の扱いについては、本文で項を設けて触れております。

続きまして、日本文教出版です。ここは、点字を活用する課題が設定されておまして、実物の点字について生徒が触れることができます。生徒の関心を高める効果が期待できます。また、見開きごとに、「学習の課題」、「見方・考え方」、「確認」、「深めよう」が設定されており、生徒が主体的に学習に取り組む工夫がございます。領土の単元については、本文で触れて、読み物資料で詳細に触れております。

続きまして、自由社でございます。「基本的人権の尊重」の学習については、義務に触れてから権利を学ぶ構成となっております。今までのほかの社は、順序が権利を学んでから義務という順番になっておりましたけれども、自由社につきましては、義務に触れてから権利という順番になっております。見開きごとに学習する課題が示され、課題も設定されています。領土の単元につきましては、本文に加えて、読み物資料でも触れております。

続きまして、育鵬社でございます。育鵬社もですね、自由社と同じで、その基本的人権の尊重については、義務に触れてから権利を学ぶという構成になっております。また、見開きごとに学習する課題が示され、単元末に課題を設定し、生徒に主体的に取り組ませる意図が見られます。また、領土の単元については、本文に加えて、読み物資料でも触れております。

デジタル教科書につきましては、自由社と育鵬社がデジタル教科書の用意がございません。ほかの社は、デジタル教科書がございます。

事務局からは、以上です。

○ **委員長** それでは、お気づきになったところからお願いします。

○ **委員** SDGs関係でいうと、育鵬社と日本文教出版と教育出版が、表のほう、一番初めというか、見開きをすぐ開いた写真のところにその関係のことが先に出ているのですけれ

ども、東京書籍は、182ページか何か、中のほうで簡単に説明しているところがあって、帝国書院はSDGs関係は一切触れていないのですけれども。東京書籍が触れていないのか。

○ **担当** 東京書籍につきましては、195ページに、単元です。学習の流れの中で。

○ **委員** SDGs。

○ **担当** 東京書籍ですね。

○ **委員** 東京書籍はないですよ。

○ **担当** 確認します。

○ **委員** 帝国書院のほうが183か。178で、183にSDGs関係が出ています。関係はあまりないのかもしれないのですけれども。

○ **委員** 皆さん、政治とか、人権とか、そういったところは結構興味があるところかなと思いましたが、私はちょっと経済の分野で少し比較してみたのですけれども、経済で中学生ぐらいの発達段階だと、やはりお金のこととか、やはりお金でいろいろなことを表現するので、貨幣についてどういうふうに取り上げているか、ちょっと比較してみました。

例えば、東京書籍は154ページですね。結構ちゃんと取り扱ってくれているなという感じがいたします。それから、帝国書院だと110ページですね。東京書籍に比べるとちょっとあれかなという感じですね。ちょっとさらっとという感じだと思います。それから、日本文教出版だと129ページ。これはさらにさらっとですかね。育鵬社は、118ページ。上のほうで、何か貨幣の歴史的なところで、流れみたいな、こんなような順番で、今は電子マネーになっていますみたいものと、あと、本文で少し出て、説明が出て、お金の役割とかが出てきます。教育出版は、131ページ。本文にはなくて、コラムというのでしょうかね。読み物とか、小さい字のところでもちょこっと出てきます。あとは、何だっけ。見本が、今、手元にないのがどこだ。自由社か。自由社は、126ページに、表記があるのかないかちょっと分からない。書いてあるのかなというぐらいだったと思うのですけれども。

今、電子マネー化とか、そういうふうに言われていて、だんだんそういう世の中になっていくのでしょうかけれども、やはりその基になっている貨幣というのは、中学生ぐらいがいろいろ経済のことを考えるときにはやはり大事なのかなというふうに考えると、ちょっとこの差は意外とあるなというふうに思いました。

以上です。

○ **委員** 家庭科でもやりますよね。そこは。

○ **委員長** 中学生の段階でいったら、どこがいい感じですか。

○ **委員** 東書はいいですね。やはり。

○ **委員長** 東書。ありがとうございます。

○ **委員** 東書は、お金から入って金融につながっているのですよね。この流れもいいのかなという感じがします。

ただ、私が最初に言っているのと矛盾するのですけれども、経済の基本の中の一つでは

ないかなという捉え方では、経済に入ったページのなるべく早いところで取り上げているといいのかなというふうには思いますけれどもね。今言った東書は、内容は充実をとてしているし、その後の流れがとていいですけれども、経済の初めではないのですよね。ちょっと進んでからの登場になっていますので、それはどういうふうを考えるかなというところではありますけれども。

○ **委員長** 国旗、国歌のところを見てみました。国で決めて互いにそれを尊重しようという論調で書いてあるのが、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版です。自由社のほうは、やはりそのような意味合いもたくさんあるのですけれども、日章旗の意味、君が代の意味、国旗掲揚の国際儀礼。国際儀礼と書いてあるけれども、これは日本ではなくてあれですかね。外国まで全部そうなのですかね。自由社はお手元にあまりないとは思うのですけれども、168ページに出ています。それから、どこの国の国歌だろうということで、いろいろなところの日本語訳が出ておまして、大韓の人、大韓としていつまでもとか、これは、大韓民国、韓国でしようけれども、戦闘のさなかでも、我々は死守する、砦の上に星条旗は雄々しく翻っているだろうか、これはアメリカでしようけれども、こんな歌詞だったのですね。血まみれの旗、翻り、決戦場にあふれたおびえた敵兵の叫びを。これはどこですかね。

○ **委員** 国歌はそういうのが意外と多いのですよね。

○ **委員長** それがいいのかどうかというところですね。中学生の段階で。なかなか意見が分かれるのかな。自国の国旗、国歌に対して、起立する。外国に対して、起立する。日本とアメリカの比較とかが出ています。

それから、育鵬社も、やはり君が代、アメリカ国歌、中国国歌、フランス国歌、イギリス国歌。育鵬社、180、181ページですね。どこも国際的なというのは出ているのですけれども、この国際社会で通用する国旗、国歌への敬意の表し方なんというのが出ていますが、これは事務局も分からないですか。これ、グローバルスタンダードですかね。雨の日は外に揚げないとか。日の出から日没までにするとか。分からないのですよね。これは、出典は出ているのですけれども。自由社のほうは。

○ **担当** 確認いたします。

○ **委員長** ちょっと分からないですね。これ、いや、検定に出ているのだから間違いではないとは思うのですけれども、ここまで中学生段階で詳しく全部説明する必要があるかというところだと、どうなのかなとちょっと思いました。

委員、聞いていいですか。

○ **委員** はい。

○ **委員長** 当然、領土問題とか、そういうところも触れなければ公民はあれですけれども、フラットに取り上げているという点ではどうなのですかね。中学生段階で分かりやすいというか。

○ **委員** 領土問題をですか。

- **委員長** 例えば、領土問題。
- **委員** ちょっと待ってください。
- **委員長** 全部の比較ではなくてもいいけれども、これはどこも北方領土とかは出ていますよね。尖閣なども。
- **委員** だと思いますね。
- **委員** 尖閣の写真が出ていないのが帝国書院ですよ。尖閣諸島の写真が出ていないですよ。ほかは全部写真が出ているのだけれども。あと、自由社か。自由社も出ていないのかな。帝国書院でいうと、176ですよ。それから、東京書籍でいうと185。
- **委員** いや、帝国は、尖閣は大きく載っているのです。175ページ。
- **委員** これがでかく載っているのですか。では、そこの一番上に載っている写真。尖閣諸島をめぐってと。
- **委員** 尖閣諸島のあれはすごいですよ。
- **委員** 本当だ。一番上にでかか載っているのですね。
- **委員** 日本の海保の船に挟まれた中国船というのを載せていますね。
- **委員** それが尖閣の大きい島のほうか。では、みんな載っていますね。写真は。
- **委員** 載っています。
- **委員** 東京書籍は185で、文教出版が183、それから、育鵬社が187。
- **委員** 1つ、委員長、よろしいですか。その内容で、領土問題で、ちょうどたまたま僕は読んでいたので。
- **委員** その中で、やはり自由社がですね、そこだけ、外交でとか、話合いで粘り強く交渉していこうという口調が、非常に弱いというか、ないというような印象を受けました。その他は、やはりどこかの文章で必ず粘り強く外交をしていくかとか、しっかり話し合っていかなければいけないというところは記述があるのですけれども、占領中であることを強調したりだとか、そういうような作り、コンテンツになっているかなという印象を受けました。

その中で、唯一ですね、日本文教出版が、その他の違う国の中での領土問題を解決したソリューションが書いてあったりとかというところで、さらに、この日本だけではなくて、世界の領土問題まで発展して、しかも解決したところまで書いてあるというところが、一つ考えの視点を増やしてくれるコンテンツになっているなというふうな印象を持ちました。

- **委員長** 何かほかにもお気づきになった点、あれば、お願いします。

先ほど展示会の意見でとって、育鵬社は公民的分野でも否定的な意見が5件上がっていたのですけれども、その中に、日本国憲法はGHQに押しつけられたもの、改正すべきという主張をしているところがとても気になるという意見がありました。41ページがそのことなのかなと思って、今、見ていたのですけれども、日本政府は改正案をつくったけれども、GHQは、これを拒否して、1週間で作ってそれを受け入れるように厳しく迫った。事実は事実なのですか。大筋において。結構、その隣に、GHQは徹底した検閲を行

ってとか、いろいろ書いてあるので、かなりそういう規制をしたような書き方はしていませんね。あとは、憲法改正についての記載が非常に多いというふうな意見も展示会では出ていたようです。育鵬社がですね。

レイアウトとか、この彩りを見ると、どこも遜色ないですね。

- **委員** そうですね。
- **委員長** どこも何か見やすい感はあるのですけれども。
- **委員** 見やすいですね。すごく。
- **委員** それはそうですね。

先ほど東書にはSDGsがないという御指摘がありましたけれども、東書の180ページにちゃんとありました。

- **委員** 分かりました。
- **委員長** 目次にないけれども、出ているという。
- **委員** 選挙権の辺りは、何年生でやる。
- **委員** 選挙権、3年。公民は3年で、3年でしかやらない。
- **委員** そうなのですね。3年生となると、18歳まであと3年しかなくて、やはり最初の御説明にあったように、教育出版さんがこの18歳の選挙権についてちょっと多めに触れていらっしゃるかなと思って。あと、教育出版さんだと、89ページの右下のほうに、投票率を上げるにはどうしたらよいか、ほかの国の例を参考に意見交換をしようということが書いてあって、東京書籍さんだと、81ページに指標のもつ意味というのを右下のほうに書いてあったりとかするのですけれども、結構入れる人がいないから行かないとか、もう誰もいないからこの人とか、割と適当に候補者を選んでいる方が昨今ちょっと多いなというのを感じていまして、この辺のこういうことを子供たちが考えられるようになると、ちゃんと自分で考えて選ばなければいけないとか、自分で考えて選んだものも無駄にならないというのがこの指標のもつ意味のところちょっと書いてあったりとかするのかなと思って。あと3年しかないところなので、やはりきちんと、18歳できちんと考えられるように、この大事な15歳の時期から考えていけるように持っていってけるといいなと思った次第なのですけれども。
- **委員** 大事なところですね。
- **委員** はい。ほかのところは、何か、小選挙区と何とかの違いを意見交換しましょうとか、その辺は、何か教科書を見たりとか、学んでいけば分かるのかなというところだったので、そこは、ここの2社は子供が選挙について考えるきっかけになることが、ほんの少しなのですから、書いてあったかなという感想です。
- **委員** 帝国書院だと、100ページぐらいにそれに近いこともちょっと出てきますかね。選挙について、若者の多くが棄権すると、どうなることが予想されるか。そういう課題を課したりしていますね。
- **委員** そういうところをちょっと学んでほしいなと、子供に、思います。

○ **委員長** 公民も子供らの興味・関心が結構差がある分野かなと思って、ちょっと開いてみたのですけれども、やはりさっきの年表ではないのですけれども、そういうつかみがあるとどうかなと思ったのですけれども、どこもあるのですけれども、日本文教出版と育鵬社は、何々を試してみようとか、何々をして、これに取り組んでみようとか、調べてみようという形で提案があるのですけれども、東京書籍は、「チェック」と「トライ」ということで、少しより細かくそれが具体的にやろうというのが書いてあります。

帝国書院は、小学校とか、地理とか、歴史との関連ということで、ほかの、小学校で学んだこととか、地理的分野、歴史的分野との関連、それから、どこか振り返りみたいなものが出ています。

教育出版は、同じように、それが、関連、小学校、地理・歴史というのがそれぞれまた細かく出ているのと、他教科、カリキュラムマネジメントになるのかもしれないけれども、家庭科のこの分野とのつながりがありますよとか、例えば、消費の部分だったら家庭科ですね。それから、SDGsなんかも、右側にかなり細かく、このキーワードがSDGsに絡んでいますよというのが出ているので、これは発想が広がるというか、興味・関心を引くところではあるかと思います。ただ、どこまで使えるかという、ああ、そうで終わってしまうのか、これで自分で調べて行って、関連づけとか、そういうことをやるのかという、ちょっと未知数かと思いますが、ちょっと丁寧な感じは、印象は受けました。

そろそろよろしいですか。意見が、いろいろ範囲も広いので、なかなか難しいところではあるのですけれども。

○ **担当** 先ほどの育鵬社の、国旗、国歌への敬意の表し方なのですが、今、外務省のホームページ、国際儀礼というところで見ると、掲揚する時間帯については、例えば、日没以後揚げないとか、雨の日は揚げないとか、そういったことは出ているのですが、脱帽とか、声を出して斉唱するとか、そういったところまで具体的な記載は、今、確認できておりません。

○ **委員長** 先ほど引用があった方の論なのですね。引用があればいいとは思いますが、ちょっと国際的儀礼というからどこの基準になっているのかなと思ったものですから。

では、よろしいでしょうか。

それでは、地理的分野のへ移りたいと思います。4冊です。

では、お願いします。

○ **担当** それでは、地理的分野でございます。4社でございます。

まず、東京書籍ですけれども、見開きですね、読み物資料、「スキルアップ」、「地理にアクセス」や、まとめ、地図を活用した課題が設定されており、生徒の興味を引き出したり、学習を振り返らせたりすることができるというふうに思われます。また、SDGsにつきましては、第4章に触れられております。テーマ設定、取り組み方について丁寧に触れており、生徒に主体的に取り組ませることができると考えられます。領土の扱いにつきま

しては、読み物資料として一つずつに触れております。

続いて、教育出版でございます。教育出版も、見開きのページに、読み物資料で「地理の窓」、「地理の技」、まとめとして地図を活用した課題が設定されており、生徒の興味を引き出したり、学習を振り返らせたりすることができると思われれます。続いて、SDGsにつきましては、巻頭に近いところに「地球的課題」として取り上げられており、生徒に意識をさせて取り組ませることができると考えられます。領土問題につきましては、本文中に地名別に項目化して取り上げております。

続きまして、帝国書院です。見開きページに、読み物資料として、「地域の在り方を考える」、「技能をみがく」、「声」、「未来に向けて」などが掲載されており、観点ごとの学習に取り組ませる際に効果が期待できると考えられます。SDGsにつきましては、巻頭に触れられており、地理的分野の学習において必要な視点と連動させた学習に取り組ませることができると考えられます。領土の取扱いにつきましては、本文中に地域別に項目化して取り上げております。

最後、日本文教出版です。本文、見開きのページに、「深めよう」、「確認」等が設定されており、学んだことを深めさせる配慮が見られます。また、SDGsにつきましては、日本諸地域の課題と結びつけて取り上げておりまして、課題解決の題材に京都市が取り上げられております。領土問題につきましては、本文中に地名別に項目化して取り上げております。

なお、4社ともデジタル教科書がございます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○ **委員長** ちなみに、4社とも、3つの分野、全て発行していますので、オールラウンドなところで、先ほど私が申したこのページ下のところなんかも、同じような形で統一で、小学校地理との関連、歴史との関連なんかも出ているところが多いですね。

区民の意見の中に、現在、全部文京区は地図も含めて帝国書院なので、全部同じというのはいかがなものかという御意見がありましたけれども、それは特に関係ないと言ったらいけないのですけれども、たまたま全部一緒になったり、全部違っていいわけですよ。

○ **担当** おっしゃるとおりです。

○ **委員長** どうして全部違うんだといっても、そういう制約はないわけですね。

○ **担当** はい。

○ **委員長** SDGsはどうですか。

○ **委員** みんな載っているよね。

○ **委員** みんな載っていると思って。

○ **委員長** 全部やはり出ていますか。

やはりその辺は押さえているのですかね。

○ **委員** 幾つか、何点かで比較を。

○ **委員長** お願いします。

○ **委員** まず、自然災害と防災というところが、ここ近年、地理的分野では重視されてきているところなのですが、東京書籍は、164ページから、本文2ページ、コラム2ページ分を扱っています。それから、教育出版は、158ページから、本文4ページで扱っています。帝国書院は、148ページから、これは少しボリュームが厚くなって、本文4ページ、コラム2ページになります。それから、日本文教のほうは、144ページから、この会社が一番ページ数は厚くて、本文6ページ、コラム2ページになっています。ボリュームが一番ありますね。今最後に確認した日本文教出版は、コラムで釜石の奇跡を大きく扱っているのですね。あとは、ハザードマップの見方が入っています。帝国は、コラムのところで、ハザードマップの見方と防災情報の入手の仕方ということで、生きる力に結構つながっていくのかなというところの扱い方かなという感じがいたします。

それから、また別の視点です、地理的分野だけではないのですけれども、特に地理的分野はグラフ関係の資料を読み取ったりなんかするのが、結構いろいろな場面です、出てくるのですけれども、そのグラフのつくり方とか、グラフの見方について、どんな感じで扱っているかなということをちょっと比較しました。帝国書院は、45ページです。このグラフはこういうのを表現するのにとか、割合とか、変化とか、いろいろ比較するのにやりやすいとか、そのグラフの特徴を1ページにきれいにまとめているので、非常に後から振り返るのもいいなというような感じに見えます。日本文教出版は、133ページなのですが、これも似たような感じではありますね。代表的な4つのグラフのタイプを比較して、書き方とか、読み取り方とかを扱っています。教育出版は、31ページに、気温と降水量を組み合わせた雨温図という、特徴のある、地理でよく使うグラフがあるのですけれども、これの紹介と、読み取ろうというのと、144ページに、人口ピラミッドについて触れていて、ほかの出版社とちょっとグラフとかの扱いがちょっと違うかなという感じがいたします。それから、東京書籍は、61ページにグラフの読み取り方1ということで帯グラフのことが出てきて、65ページに今度は折れ線グラフのことが勉強できて、それから、152ページに調査した統計からグラフに落とし込んでいこうという調査のまとめ方で出てきているという感じで、ちょっと違うかなという感じがしますね。中学生が学ぶのだったら、帝国とか、文教出版のように、一遍に扱っておいてくれるページがあると、ちょっと親切かなという感じがしました。

それからですね、地理の勉強でいつも指導していて非常に難しく困るというのが、1年生の最初の頃に、時差の勉強をしなければいけなくて、これが一番最初にして最大の難関で、これをどんなふうに扱っているかをちょっと調べました。東京書籍は23ページ、それから、教育出版が21ページ、帝国書院が17ページで、日本文教出版が15ページ、どれも似たような感じではあるのですけれども、本文と何か地図ですね。標準時を分けた時差を盛り込んだ地図で分けていますけれども、どの出版社も、地図と本文で、その時差の求め方とかですね、仕組みとかですね、経度が15度変わると1時間とか、そういう説明は全部あるのですけれども、見て分かるように、帝国と東京書籍が2種類の地図を使って何と

か中学生に分かってもらおうしているかなど。ほかの2社は、実際の時差を表現した地図だけを使っているという形ですね。それから、では、帝国と東書が似た感じなのかということですね、ちょっと違って、実際の時差っていろいろ国境とかが関わるので、ずれたり、経度だけでは実は説明できない部分があるのですけれども、その地図の下に、プラス1とか、3とか、これは、どこから見て、1とか、3とか、マイナスとかと言っているかということ、ちょっと違いがあって、東書のほうは日本から見ての時差になっていて、そのほかの出版社はロンドンを通る、本初子午線というか、グリニッジ標準時からの時差になっていて、日本はそれから比べると9時間違いますよと、9時間早いですよというあれになっていると思うのですけれども、ここはちょっと違うなということですね。

○ **委員** 日本文教出版のその時差の地図の下のところの課題みたいなやつなのですけれども、ロンドン、日本より時差が、抜いてあって、時間の時差があるって、これってひょっとしたら日本より時差が遅くと言わせたいのかなと思って、ちょっと表現としてはどうなのかなと思います。

○ **委員長** 先ほど挙げていただいた防災のところちょっと見ていたのですけれども、取り上げている内容はほぼ同じなのですけれども、ハザードマップが出ているのが、東書が岩手県宮古市、それから、教育出版が、これ、横須賀市ですね。それから、帝国書院が鎌倉、日本文教出版が京都です。帝国書院のほうを見ると、ハザードマップが鎌倉で、文京区は2年生がみんな鎌倉に行きますからね。校外学習で。防災情報の入手の仕方というって、水位、雨量の情報というのが港区が出ていて、川の氾濫を示す浸水の高さの看板というのは川口市が出ていますので、非常に身近なところでここが示されているので、子供らは興味・関心が行くのかなというふうに思いました。

ちなみに、東京都の資料によれば、東京に関する地理的事象を取り上げている数、東書が104、教育出版、103、帝国、118、100を超えていて、日文が86、ちょっと少ないかな。どこに重きを置いているかで差があると思うのですけれども、やはり地理的なものだと、身近な東京とか、自分にゆかりがあるところがいっぱい出ているとありがたいかなとかという点をちょっと思いました。

○ **委員** 今おっしゃっていただいた点に加えて、やはり、帝国は、写真とか、イラストの使い方がとても効果的で、同じ物事を言ったとしても、ここは写真ではなくてイラストのほうが確かに分かりやすいよねというようなところを、イラストをきちんと使っているというところが、非常に分かりやすい内容になっているなというふうに、感想としてもちました。先生が言っているところ以外とかも、生徒がどんどん先に行って、絵を見て楽しんでしまうぐらいの内容になっているなというふうに思いました。

○ **委員長** ありがとうございます。

確かに、何かこう、ページがダイナミックですね。帝国のは。

○ **委員** ちょっと格が違うなというふうな印象を受けます。

○ **委員長** ちなみに、地理で文京区が取り上げられているとかはあるのですか。

○ **担当** 特段ないのですが、だから、東京都の地理ですね。地理では特段ございません。文京区は特に。

○ **委員長** それでは、ほかにいかがでしょうか。地理のほうで何かトピックというか、ここはよかったとか、非常に目を引いたとか、そういうことでも結構でございます。よろしいですか。

地図にまいります。お願いします。

○ **担当** 地図は、2社でございます。東京書籍と帝国書院でございます。

まず、東京書籍ですけれども、画像等の資料のレイアウトにつきましても、適切な印象を受けます。ただ、巻末の統計資料については、2色刷りというふうになっております。図書のサイズでございますけれども、社会科、ほかの3分野の図書と標準的なサイズで同一のものとなっております。また、特徴的なものとしましても、歴史的な分野の学習でも活用できるような資料選定がされております。

続きまして、帝国書院でございます。地図活用というところを設定してございまして、生徒がですね、主体的に作業学習や問題解決的な学習に取り組むことができる、配慮ある構成となっております。グラフや表のレイアウトが適切で、色使いも見やすくなっております。サイズにつきましても、大きくなっており、従来よりも見やすくなった印象を受けます。また、標準的なほかの教科書のサイズと異なりますので、見分けがつけやすいという特徴もございます。

また、デジタル教科書につきましても、両社とも発行予定がございます。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○ **委員長** それでは、お願いします。

○ **委員** これは2社しかないのですけれども、帝国は、何か非常に見やすいというか、あと、立体的に、山脈とかというのがすごく立体感が出ていて、地図を見て、ぱっと広げたと見やすいなど。文字もそこそこ大きいので、そういうふうに見ました。したがって、全然ちょっと違う。

○ **委員長** 何か、色合いも鮮やかな感じですね。両方を比べると。

○ **委員** さっきのハザードというか、土地の高さ、低さで、水は入りやすいとか、入りづらいとかというのだと、どっちでしょう。帝国の123ページ、124ページのと、東京書籍のほうだと127で見ると、それぞれの東京都のほうが大きく見えていて、東京都の低い地域だとか、高い場所だとかというのが、地図が一目瞭然になっていて、色が分かれていて見やすいのかなというのが感じられます。

○ **委員長** 最近の地図は、特産品まで載っているのですね。

○ **委員** 特産品まで地図に載っているのは。

○ **委員** イラストで載っているのです。

○ **委員長** すごいですね。

○ **委員** 東京書籍なんかは。

○ **委員長** 地図だけかと思ったら、両方とも出ているんですね。

○ **委員** はい。

○ **委員長** この辺の色合いも、何か、ぱっと目に入るのは。

○ **委員** そうですね。きれいに。

○ **委員長** 帝国のほうかな。

でも、面白いですね。同じところを見ても、出ているものが違うのですね。

○ **委員** そうですね。

○ **委員長** やはり立体感があるほうが、地図は、楽しいというか、見ていて引き込まれる感がありますね。

どうしても地図ばかり目が行くのですけれども、このグラフとか、ほかのところの表示はどうなのでしょう。

○ **委員** グラフとかですね。

○ **委員長** はい。地図そのものももちろんなのですから、資料的なものがいっぱい出ているではないですか。

○ **委員** そうですね。実際には中学生は巻末の統計資料をすごく使うのですね。それで、例えば、170ページ、世界の農産物とか、鉱産資源とか、工業製品とかというのだと、これは色分けは何で、何を色分けしているかというのと、この帯グラフは、その前の国々の紹介が、基本的な統計が出ているのですけれども、これ、アジアが、例えば、ベージュだと、こっちの統計資料でもベージュだから、例えば、米だったらアジアだらけだなというのが一目で分かったりですね、そういう工夫が帝国はしています。同じことが、171、172で、日本の統計も、北海道が水色で、東北が緑でということで、そういうふうに色分けされているので、ジャガイモは北海道だらけだとか、こうぱっと分かるように、サクランボは山形の独壇場とかですね、ぱっとそういうのが分かるのですね。米は、トップの新潟といえども7.8%ぐらいしかない。基本的な統計が出ているんですけど、アジアがすごいのが分かるページだと、例えば米だったら、アジアだらけだなんてことが一目で分かるんですね。あの、そういう工夫を帝国はしています。それで、同じことが171、172で日本の統計も北海道が水色で、東北が緑で、そういう色分けがされていて、じゃがいもは北海道だらけとか、ぱっと分かるように、さくらんぼは山形の独壇場ですし、そういうのが分かる。米は、トップの新潟といえども、7.8%ぐらいしかない。要するに日本はどこでも米を作っているのが分かるので、そんな中ではやっぱり東北とかは頑張っているんだなと色分けとかをしていったら分かるようになっていて、あと、先ほど、委員長からもあったんですけど、地図の中に農産物とかですね、それがグラフの先頭に、地図中で使っているイラストを載せてくれているので、なかなか活用しやすいんじゃないかなという印象を受けます。それから、もう少し前の方で、帝国の147ページ、東書でいうと149ページ、日本の気候区分の地図とグラフが出ているんですけど、帝国の方と、指数は気候区分事態はあまり変わらないんですけど、帝国の方は季節風なんかもちょうとぱっちり入れていただい

ると、帝国の地図のその下、さっき紹介した雨温図ですけど、地図上の色分けと地図の地名をリンクさせているんですが、帝国はそれをやっていない、帝国は地図の横に雨温図を並べていますが、やっていないので。

○ **委員** 東京書籍ですね。

○ **委員** すいません。東京書籍ですね。東京書籍の方はそれをやっていないので、差があるんだなと思います。

○ **委員** 全然ちがいますね・・・

○ **委員長** 今、後ろと言ったので索引を見ているんですが、帝国の 174、東書が 176、圧倒的に帝国の方が詳しいですね、この表記が。あの世界文化遺産、複合遺産、自然遺産まで、こう分けて出ていて、東書の方は地名、首都名とか他の名所までは出ているのですが、そこまで詳しくないように感じますね。なんかあの、帝国の方の意見が多いのですが、東書の方は何かお気づきの点はございますか。では、事務局にお戻しします。

○ **担当** 次回の連絡をさせていただきます。今回は 7 月 20 日火曜日、本日より 18 時からこの会場で第 4 回目を行わせていただきたいと思います。特別の教科道徳、理科及び答申案の審議を行います。また、資料につきましては、委員の皆様事前に送付させていただきますので、あらかじめご覧いただけると審議の進みも円滑になることと思います。それでは、お手間とは存じますが、よろしくお願いいたします。